

男女共同参画センター“ひらく”最近の動き

センター便り・No.8

男女共同参画について知りたい、 と思ったら参画センターへ

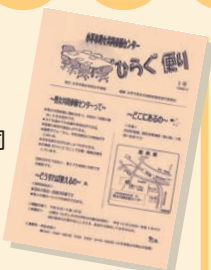
小平市男女共同参画センター“ひらく”は、男女共同参画社会の形成の促進を図る施設として、平成16年1月にオープンしました。書棚には、男女共同参画社会に関連する書籍やビデオ、資料が揃っています。広報誌「ひらく」のバックナンバーも置いてあります。



4月1日に小平市に男女共同参画推進条例が施行されますが、男女共同参画センター“ひらく”では、男女共同参画について知りたい、と思われた皆さんのために、書籍やビデオ、資料を分かりやすく整理しました。気軽にご来館下さい。

※参画センターの開館時間は、午前9時～午後10時まで（毎週火曜日と奇数月の第二日曜日、年末年始は休館です。）

昨年末から「センター便り」の発行を始めました。参画センターについて、みなさんがお知りになりたいことを、お伝えします。（年2回発行予定）



小平市男女共同参画推進条例が施行されます。

市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野の活動にその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、「小平市男女共同参画推進条例」を制定しました。施行日は平成21年4月1日です。

この条例は、男女共同参画の推進に関し、その理念と市、市民等、事業者の責務を明らかにするとともに、市の施策の基本的事項を定めることにより、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、男女共同参画社会を実現することを目的としています。市は、男女共同参画の推進を最重要課題の一つとして位置づけ、これまで以上に市と市民等、事業者などと相互に連携、協力し、取り組んでいきたいと思っております。

条例は、小平市ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.kodaira.tokyo.jp>

次世代育成部青少年男女平等課

ドキュメンタリー映画『街にはアートがいっぱい』

企画・制作・監督：川崎けい子
制作：オフィススリーウェイ
<http://office3way.com/>



9.11テロの報復で、大量の爆弾がアフガニスタンに降り注がれる映像を見て、いてもたってもいられなくなった女性カメラマンがいた。その活動は『ひらく』10号で紹介されたが、単身アフガニスタンに飛んだ彼女は、この国が、大国の思惑によってどんどん荒廃していくのを目の当たりにした。時を追って深刻になり闇はますます濃くなるアフガニスタン。先の見えない無力感に襲われた川崎さんにとって、日本の過疎の現状は、未来を感じさせる希望があった。



財政破綻した夕張市と同じくらい厳しい財政を抱える塩竈市が、公共事業でもなく、工場誘致でもなく、アートによって新しい市民のエネルギーを引き出そうと、市民が企画したアート・イベント「塩竈・もとまちアート海廊」を準備しているのを知って、どうしてもドキュメントを撮りたいと思った。

アートって何だろう。
街ってなんだろう。
人にとって大切なことってなんだろう。

「塩竈・もとまちアート海廊(ウォーク)」の40日間を記録した『街にはアートがいっぱい』は、『ヤカオランの春』『壁の中の少女たち』と同じように、大きな力に翻弄されながらなんとか自分たちの生活を守ろうとする人間のあるがままの姿の映像なのだ。



ひらく

第24号
平成21年3月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 笹 和紀
笹尾かをる 佐野 里美 鈴木さよ子
谷原 裕子 涌井真知子